



令和3年12月10日
海上保安庁

第17回アジア海上保安機関長官級会合(オンライン)への 海上保安庁長官の参加について(結果概要)

12月7日、8日と、2004年より我が国主導により開催している「アジア海上保安機関長官級会合(HACGAM)」の17回目となる会合がベトナムのホストによるオンラインで開催され、海上保安庁からは奥島 高弘長官が出席しました。

本会合では、「搜索救助」、「海洋環境保全」、「海上不法活動の予防・取締り」及び「人材育成」の4分野について、各国の取組や好事例を発表するとともに、今後の活動について議論がなされました。

1 日程概要

日時: 令和3年12月7日(火)から8日(水)まで
形式: オンライン

2 参加メンバー国・地域等(21か国、1地域、1機関)

オーストラリア、バーレーン、バングラデシュ、ブルネイ、カンボジア、中国、インド、インドネシア、日本、韓国、マレーシア、モルディブ、ミャンマー、パキスタン、フィリピン、シンガポール、スリランカ、タイ、トルコ、ベトナム、ラオス、香港(中国)、ReCAAP-ISC
(オブザーバー参加: フランス、バリ・プロセス、UNODC)

3 主な会合成果

- ・HACGAM ウェブサイトの正式運用に関する合意
- ・フランスの HACGAM 正式加盟を承認
- ・「搜索救助」、「海洋環境保全」、「海上不法活動の予防・取締り」及び「人材育成」の4分野について各国発表事項
- ・共同声明を採択(別添)



全体写真



全体会合の様子



WGの様子

共同声明
第17回アジア海上保安機関長官級会合
(2021年12月8日採択)

オーストラリア、バーレーン、ブルネイ、バングラデシュ、カンボジア、中国、インド、インドネシア、日本、韓国、マレーシア、ミャンマー、モルディブ、パキスタン、フィリピン、シンガポール、スリランカ、タイ、トルコ、ベトナム及び香港の海上保安機関の長は、ReCAAP ISCのアソシエイトメンバー及びBari Process、フランス、UNODCのオブザーバーとしての参加を得て、各海上保安機関の権限及び任意参加の原則を最大限尊重するとの枠組みにおいて、

20か国・1地域・1機関の会合メンバーが、地域の海上安全の確保と促進のため、連携を強化することを確認し、2014年に横浜で開催された第10回アジア海上保安機関長官級会合(HACGAM)の共同声明に基づき、会合メンバーの連携を継続し、主体的に同会合の枠組みを活用することにより、安全で、美しい、アジアの海を未来に繋げていくことを合意したことを想起し、

HACGAMの基本思想であるペーパーワークからフィールドへという考え方にに基づき、より実務的な協力関係を強化していくことの重要性を認識し、

「捜索救助」、「海洋環境保全」、「海上不法行為の予防・取締り」及び「人材育成」に対応する4つのワーキンググループが、議長国であるインド、フィリピン、オーストラリア、インドネシアのイニシアチブの下、“Safe Secure and Clean Seas”を維持・確保するための取り組みを前進させていることを評価し、

HACGAM ウェブサイトの正式運用が開始されることに关しインドに感謝し、

2022年より「捜索救助」、「海洋環境保全」、「海上不法行為の予防・取締り」及び「人材育成」に対応する4つのワーキンググループの次期議長国をインド沿岸警備隊、スリランカ沿岸警備庁、中国海警局及びパキスタン海上警備庁が務めることに合意し、

フランスのHACGAM新規メンバーとして歓迎するとともに、継続的なHACGAM及び地域への支援に期待し、

UNODC-GMCPのプレゼンテーションと次期アソシエイトメンバーとしての参加への熱意に、インドの2022年HACGAMホストに関する意思表示に感謝し、

ベトナム海上警察による初の試みとなるオンラインHACGAM開催にかかる多大なる努力と素晴らしい調整と支援に感謝し、

我々は、国家間の海上保安に関する連携が、地域の海上交通安全の確保と促進に有効であると確認し、安全で、美しい、アジアの海を確かなものとするため、この連携を維持・発展させることに同意した。